



梶浦 明日香

大須賀 彩

太田 結衣

『凧九』代表。元NHKキャスター。取材を通じて、多くの伝統工芸に後継者がおらず、存続の危機となっていることを知り、職人自らが発信することが大切だと強く意識するようになる。根付の粋な遊び心、細かな彫りの美しさに感銘を受け、当時国際根付彫刻会会長だった中川忠峰氏に弟子入りを決意。

大学で有松・鳴海絞を知り、その技法の凄さに衝撃をうけ職人になろうと決意。2007年欧州で有松絞りを展開していたsuzusanに弟子入り。その後、括り職人は様々な絞問屋で修業をすべしとの助言を受け、山上商店へと移籍。2017年4月独立し伝統の技を受け継ぐとともに、現代の感性をも取り入れ新しい商品を提案すべく活動している。

2008年 女子美術大学短期大学部 卒業、2010年 多摩美術大学 卒業。幼少期から祖父が集めていた神宮の「えと守」に触れて育ち、2010年に伊勢一刀彫師・岸川行輝氏に出会い弟子入り。主に神社の干支を制作。
“心が豊かになるような一刀彫”
を心に留めて「一刀彫 結」を手掛けている。



田村 有紀

中西 由季

那須 恵子

伝統工芸品「七宝焼」発祥の地、愛知県七宝町にて 1883 年より続く窯元「田村七宝工芸」の五代目。武蔵野美術大学卒業。伝統を守る一方で七宝焼の再認知や伝統産業の再構築を図るため七宝ジュエリーブランド「SHIPPO JEWELRY -TAMURA YUUKI-」を立ち上げる。

小さい頃から物作りが好きで職人さんに憧れて高校を卒業後、京都伝統工芸大学校で 2 年間勉強。地元豊橋の豊橋筆川合毛筆の川合福男氏に 2010 年に弟子入り。2016 年に独立。使い手が求める筆を丁寧に丁寧に作り、期待を裏切らない事を常に考え、取り組んでいる。

8 年間印刷会社で商業イラストを制作。退社後、伊勢型紙と出会う。2010 年 彫師を志し鈴鹿市に移住。生田嘉範氏に師事。伝統の技を大切に技術練磨の傍ら伊勢型紙の普及・振興の為ワークショップや地域NPO運営に携わる。『型紙が100年先も染め手を支え、型紙で心を伝える』を目標に挑戦を続ける。



藤岡 かほり

松尾 友紀

村上 麻紗子

富山県生まれ。大学卒業後、会社勤務を経て組紐店の四代目と結婚し、初めて組紐に携わる。伝統工芸士の母と夫の指導のもと、主に高台による帯締め製作を学ぶ。現在 百貨店等の催事で実演販売、お客様へ色・柄の提案も行なっている。着物に興味を持ってもらえるような帯締め作りを心がけている。

元ホテルマン。明障子一枚を隔て内と外につくりだす間、和紙の奥深さに感動し和紙の世界へ。いくつかの産地を経て障子紙の地・美濃に移住。本美濃紙技術保持者の鈴木はぎ、豊美阿氏に師事。用途の違う様々な和紙の技術習得に励む一方、教育事業やワークショップを通じて地域活性に取り組んでいる。

文化服装学院を卒業後、企業デザイナーとして就職。流行のまま大量に生産、消費されていく製品のあり方に違和感を覚え、一つ一つを大切に作るものづくりを行いたいと思うようになる。香川県で讃岐漆芸を学び、三重県に移住後は神職が履く浅沓の製造技術を習得。現在は、これまでの経験を生かした創作に力を注いでいる。



contact:link.kougei 2017@gmail.com

男性のイメージが強い伝統工芸の世界。
後継者がおらず、社会の移り変わりとともに受け継ぐことが難しいとされる中で
9 人の伝統工芸を受け継ぐ女性職人たちが立ち上がり、グループを作りました。
女性らしいしなやかな感性で、
伝統工芸の世界を表現します。

根付、絞り染め、一刀彫、七宝、筆、型紙、組紐、和紙、漆という、それぞれの技を受け継ぐ職人たち。
女性ならではの感性で、たくさんの人とリンクして、
多くの人に伝統工芸の魅力を届けていきます。

凧九
私たち、
伝統工芸の職人です！





梶浦 明日香 Kajiura Asuka

伊勢根付



大須賀 彩 Osuka Aya

有松・鳴海絞



太田 結衣 Ota Yui

伊勢一刀彫



田村 有紀 Tamura Yuuki

尾張七宝



中西 由季 Nakanishi Yuki

豊橋筆 川合毛筆 筆職人



那須 恵子 Nasu Keiko

伊勢型紙彫刻



藤岡 かほり Fujioka Kaori

伊賀くみひも



松尾 友紀 Matsuo Yuki

美濃和紙



村上 麻紗子 Murakami Masako

漆芸（伊勢）